

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	バンダキッズ元町		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 10日		～ 2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・教室内が広いので、簡単な運動もしやすく、いくつかに分かれて違った療育が可能。	・運動遊び、机上遊び、工作などお互いに邪魔にならないような配置をして、楽しく過ごせるように心掛けている。	・職員の得意な分野を活かして、それぞれの支援の幅を広げてより療育を充実させていきたい。
2	・障害特性に長けた職員が全職員に定期的に研修等を行い知識、技術を共有できている。	・各職員が持っている技術や知識をみんなで共有し合える機会を随時取っている。	・事業内研修の他にも外部の研修への参加も増やしていきたい。
3	・コミュニケーション能力を養う集団活動において、柔軟な療育が行えている。	・同じ活動でも、人数や参加者の特性によって、有効な療育ができるように対応している。	・すべての職員が、状況によってその場で対応を考えて、実施できるようになる事を目標としている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・周りに坂が多く、交通量も多いので、到着時、出発時の車の乗り降りに危険が伴う。	・立場所が坂の途中で、玄関まで階段がある。	・必ず職員が近くで見守り、職員同士声を掛け合いながら確認している。
2	・教室の広さはあるが、興奮状態になった児童がクールダウンできる個別の部屋がない。	・更衣室兼物置部屋は独立しているが他は大きな一つの部屋になっている。	・ついたてで遮る事はできるが、音はそのまま聞こえているので、視界、聴覚ともに遮る空間があれば効果的になる。
3	・地域住民や児童施設、高齢者施設との交流が少ない。	・交流が持てそうな施設などが少なく、こちらからも積極的な行動を起こせていない。	・地域の方へのあいさつは、利用者も含めて行っているが、機会があれば地域にイベントにも参加したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 バンダキッズ元町

公表日 2025年 2月 25日

利用児童数

32名 2024年12月31日

回収数 23

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23				十分なスペースが保たれている。 簡単な運動もできるスペースが満 足している。	広さを活かした療育を考えて、机上遊び、運 動遊びなど複数の活動ができるように考えて います。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23				手厚く見て頂いている。	学校へのお迎え時に事業所内の職員数が少な くなるので、その時は安全を第一に考えての 対応をしています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	2		1	入り口に狭い階段があり、雨天時は 滑りやすい。洗面、トイレに行く所に段 差がある。	階段の上り下りや洗面所に向かう時は必ず職 員が見守るようにしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23				しっかりと奥まで見た事はないが、見え る範囲では清潔感は感じる。	室内の広さを活かして、それぞれ落ち着いた 過ごし方ができるように工夫している。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	20	3			子どもの特性、長所、短所を見極めた支 援を受けられている。	それぞれの特性を考慮し、各職員の専門性も 加味した支援を考えています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	21	1		1	公表している支援プログラムはわから ないが、子供にとっては適切な支援内容に なっていると思う	当事業所の支援プログラムをホームページに アップしました。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	23				家族が気づかないところまで、書いてく れているので助かる。	現場の職員同士での意見交換を随時行い、細 かい部分まで職員同士の共有に努めていま す。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	21	1		1	子どもの今現在の問題点と将来の課題を よく考えてくれている。	ご本人の支援内容に加えてご家族のご要望な どをお気軽にお伝えいただけるようにしてい きたいと思います。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23				新たな支援をしていただいた時は、丁寧 に説明してもらっている。	支援の項目が多くなりすべての目標への支援 が行き届いていないので、定期的に各利用者 の目標の確認をしています。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	20	3			自分の子どもは、楽しめそうにない活動 も見受けられる。 家に帰ると内容を話してくれる。	以前と同じ活動でも、目的や課題を変えるな ど、児童が楽しんで参加できるように工夫を しています。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	4	3	2	14	子どもからも先生からも話を聞いた事 がない。	現在はありますが、機会があれば参加を検討 したいと思います。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	22	1			契約時に説明があった。	利用時に説明させて頂いています。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	23				計画書を見ながら説明してもらって いる。	お仕事でお忙しいご家族の方には、お電話や 文書で説明させて頂く事があるが、不透明は 連絡いただくようにしている。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	14	2	3	4	事業所での活動はないが、研修会や興味 深い本の案内をしてきている。	事業所としての研修会はできていないので、 一般の研修会などのお知らせは増やしてい きたいと思います。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思いますか。	22	1			親でも気づかない事をキャッチして伝 えてくれるので助かります。	こちらで気づいたことを各職員の意見を聞き ながら、ご家族に伝えるようにしている。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	2	1	1	こちらが大変な時に面談をして下さり助 かりました。	随時見学や面談は受け付けていますので、お 気軽にお申し出頂けるように周知していま す。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21				無回答 1（共感的の意味がわかりにく い） 子どもの事を理解して支援頂いている。	各児童の特性などを職員みんなで共有して支 援を行うようにしています。	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交 流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょう だい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設け られるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3		12	8	忙しい保護者が多いと思いますが、同じ ような特性を持っている子の保護者と話 をする機会があればうれしい。	保護者同士が集まれる機会は考えていき たいと思います。	
	19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されて いるとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周 知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていま すか。	21	1			1	面談の申し入れに対して迅速に対応して もらった。 面談の申し入れをしたいが、迷ってしま う。	面談や見学に対しては随時受け入れていま すが、気軽にお申し出頂けるようにお知らせ していきます。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされて いると思いますか。	21	2				言葉での会話が難しいので、カードや ジェスチャーなど工夫して頂いている。	コミュニケーションの取り方もそれぞれ特徴 があるので、その児童がリラックスして伝 えられる事を重視しています。
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制 等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信 されていますか。	22				1	インスタグラムを楽しく拝見してい ます。	できるだけ活動ごとに様子をインスタグラム で配信し、2か月に一度「バンダっこライ ブ」をお配りしています。	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22			1	気をつけて扱われていると思います。	個人情報の取り扱いに関しては職員同士での確認を行っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21			2	マニュアルがある事は知っているが、内容までは理解できていない。避難訓練のお知らせはもらっている。	各マニュアルに対しては十分に保護者への内容を周知できていないので、周知方法を考えたいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22			1	地震、火災、防犯の訓練のお知らせは頂いている。	児童も含めた地震、火災、防犯に対する避難訓練や交通安全の訓練を毎年実施している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22			1	送迎時に細やかな声掛けをしてくれている。	事業所内、送迎時などそれぞれのリスクを想定して日頃から安全に対して職員同士で確認し合っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20			3	小さな事故（かすり傷等）でも保護者に連絡を入れてくれている。	事故発生時マニュアルを事業所室内の見えるところに置いて、定期的に確認している。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23				友だちや先生への安心感が感じられる。自分らしさを出せる場所になってきている。	児童たちにとって安心してリラックスできる安全基地としての役割も、果たしていきたいと思っています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	21	2			特に土曜、長期休暇のイベントが楽しみです。毎回話をしてくれます。まだ家でゲームをする事が子供にとって一番の優先になっています。	事業所の広さや各職員の得意な分野を活用して、みんなが楽しめるアイデアを職員間で話し合っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1			とても満足しています。困った時に相談にも乗ってくれるので助かります。	今後も児童の支援だけでなく、保護者の皆様も安心できる事業所を目指していきたいと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		パンダキッズ元町				公表日		2025年 2月 25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		充分なスペースが保たれているので運動、机上活動もグループに分かれて行っている。	たくさんのグループで活動した時の職員配置に気をつける。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		学校へのお迎えが重なると事業所内の人数が減るので、個別の対応は職員が増えてから行うようにしている。	数人の来所後に別の送迎が入ると、事業所内の職員対応が薄くなる事がある。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		階段の上り下りや洗面所に向かう時は必ず職員が見守るようにしている。	入り口に狭い階段があり、雨天時は滑りやすい。洗面、トイレに行く所に段差がある。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内の広さを活かして運動、机上遊び、学習と分けて実施する事が出来ている。	不安定になった児童がクールダウンできるスペースを確保したい。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室がないので、玩具置き場や相談室を利用している。個別学習用の机を3台用意して対応している。	他の児童の音が聞こえるので、集中しにくい事がある。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員全員が一緒に参加できる事が少ないため、後から個別で意見を聞いている。	休みの職員もいるので、全員で参加できる事は少ない。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		随時必要な時に職員でミーティングを行っている。	休みの職員もいるので、全員で参加できる事は少ない。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		支援会議以外の時でも気が付く事があれば職員で話し合う機会を設けている。	内容によって口頭で個人に指示するか全体での会議で扱うかの判断が難しい時がある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部からの評価はうけていない。	状況により第三者による外部評価を受け、今後の業務改善につなげていきたい。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内での研修のほか、外部での研修があれば通知している。	外部の研修があっても、タイミングが合わず受講できない事が多い。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員で話し合い月ごとに決めている。	事前に職員全員でリハーサルを行っているが、本番でのトラブルも多々ある。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		それぞれの児童に対してモニタリング、アセスメントを行い、保護者のニーズも取り入れた計画書になるようにしている。	保護者の意向は書面や送迎時の聞き取りで行う事が多いので、面談での聞き取りを増やせるように工夫したい。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個々の児童に対して職員全体の意見を聞いて作成している。	各職員の知識、技量に多少差があるので、同じレベルの支援ができるようにしていきたい。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援に関する重要な点は随時確認しながら支援している。	現在の計画書は目標設定の数が多く、必要のない目標も立てざるを得ないため重要な支援目標に集中できていない。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		質問の意味がよくわからないという意見が多かった。フォーマルアセスメントを参考に事業所内での様子を含め評価をしている。	形式にとらわれず、効果がありそうな事を実施して、その結果により次の支援を考えている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		職員でモニタリングを行い、ご家族及びご本人の意向を踏まえて計画書を作成している。	各項目ごとに支援計画を立てているが、その児童によって必要のない項目もある。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		それぞれ職員が得意な分野を中心に、各児童が課題としている事を話し合っている。	事前にシミュレーションを行い、改善して活動の支援に取り組んでいる。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		各児童がやり終えた後、満足感、充実感が得られるような取り組みを考えている。	年齢の幅が広いため、全員が興味深く活動に参加できていない時もある。			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		コミュニケーションや、自己の気持ちのコントロールの支援も集団、個別それぞれに合わせて行っている。	自己のコントロールが必要な時に落ち着いて過ごせる場所が少ない。			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に全員で行っている。	打合せ当日休みの職員には、連絡ノートで伝えているが十分に伝達できていない時がある。			

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		帰りの送迎後で退社時間が迫っている時は、翌日に伝えるか、急を要する時はメールなどで、報告し合っている。	帰りの送りから帰ってくると時間があまりない事が多い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用者の毎日の日報は当日、もしくは翌日の出勤後に行っている。	日報用紙で足りない時は、別紙を使って支援・改善につなげる事がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個々の児童に対して職員全体の意見を聞いて作成している。	基本的に6か月に1度の見直しをしているが長期休みは会議の時間が取りにくい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		地域交流の機会は作れていないが、自立支援、創作活動、余暇の提供においては組み合わせ合わせて支援できている。	地域交流がなかなか実施できていない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		遊びの内容、ルールなどを児童主導で話し合っていて遊んでいる。	職員が状況を見ていない時のトラブルの決着方法の確立。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管が職員の話も聞き取ったうえで参加している。	最も接している職員とともに参加したいが、会議は午後からが多く参加が難しい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療関係はないが、学校や他の事業所とは連携して支援できている。	学校や他の事業所と連携が取れている利用者としてでない利用者がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		ホームページで確認しているが、ご家族、学校の先生とも連携を取り合っている。	年間や月間予定が急に変わった時に対応が遅れる事がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		同じ事業所の児童発達支援事業所は密に取れているが、他の事業所や保育園等とは基本的な情報共有のみになっている。	保育園等はほとんど関連できていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		対象者なし。	対象者なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		積極的な連携はとれていない。	現在空き情報で連絡があるが、その他は関わりは少ないが今後は連携を取っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		なし。地域の人とはあいさつ程度。	機会があれば考えたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加していない。	機会があれば参加を考えたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にこちらの様子を伝えて、保護者からのご相談なども受けるようにしている。	送迎時はゆっくりとお話ができない事がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ご家族へ支援の仕方のご提案をしたり、研修のご案内をさせていただいている。	児童の特性によって、すべての保護者に該当するわけではないので、ご案内できていないご家庭もある。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、及び変更時にはお伝えして、同意書を頂いている。	支援プログラムに関しては、これからホームページでお知らせしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談、課題整理表でのやり取り、送迎時などで確認している。	面談や見学のご希望は随時受け入れられているが、実施件数を増やしたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		直接ご説明できない時は、電話やメール、文書などお伝えしてご不明な点があれば、ご連絡いただくようお願いしている。	ご家庭の就労状況により、文書や電話でのお伝えになる事がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時にお話させて頂いたり、時間がある時にお電話させて頂くなど、できるだけ迅速に対応している。	送迎時だけでは時間が少ないので、できるだけ面談など時間を取ってお話させて頂ける機会を作っていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	父母の会はなし。	保護者同士の関りを求めている方もいらっしゃるので、検討の余地はある。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		責任者以外の職員に伝えられた時でも、すぐに責任者に報告する事を徹底している。	事の大きさにかかわらず、迅速に対応しているが、人を介すると食い違いが生じる時がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページからInstagramで様子をお知らせすると共に2か月に一度事業所での様子などのお知らせも配布している。	個人情報保護の観点から、伝え方が難しい事がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		Instagramの写真の掲載は各保護者の方から同意書を頂いている。	どこまでの情報の保護に当たるかが難しい時がある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉でのコミュニケーションに不安がある利用者に対して簡単なジェスチャーや絵カードを使うなど工夫している。	静かな環境を好む利用者に適切な環境を提供する事が難しい時がある。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	同じマンションの住民には気持ちよく挨拶をするように心掛けている。	地域住民とともに行う行事は今はできていないので、参加できそうなものがあれば検討していきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員へは研修で周知して、室内の見えるところに常に保存している。	職員へは研修として周知できているが、保護者の方へはすべての内容をお伝えできていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		地震、火災、防犯、交通安全についての訓練は毎年おこなっている。	利用者全員が参加して行う事が難しい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		毎年春にお子様様子をフェイスシートに記入して頂いて室内の見えるところに常に保存している。	服薬の変更も連絡ノートやお送り時にお聞きしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		毎年春にお子様様子をフェイスシートに記入して頂いて室内の見えるところに常に保存している。	医師の指示書は頂いていない方が多い。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員全員で研修、訓練を行っている。	実際の起こり得る場面の想定が難しい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全対策に関してのマニュアルを作成して、事業所の目につく所に置いて、ご家族にも書面で配布している。	ご家族への連携方法は確立しているが、詳しい取組内容の周知が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		案件があった場合は、原因を探り、対策を迅速に立てて共有するようにしている。	職員によって「ヒヤリハット」案件の基準が違う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に数回研修を行い社内で委員会を開いている。	様々な虐待に対しての数種類の研修を行う必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		年に数回研修を行い社内で委員会を開いている。	該当例が無く支援計画書には記載していない。。	